# 行政視察報告

## 総務文教常任委員会

11月11日に滋賀県米原市、12日に愛知県犬山市及び大阪府茨木市を視察しました。

### 地域担当職員制度及び自治会カルテ

**米原市**では、「地域担当職員制度」及び「自治会カルテ」について視察を行いました。人口約4万人、面積250.39平方キロ。

「地域担当職員制度」は、自治会からの要請により職員を派遣し、職員は地域の課題や今後のまちづくりの方向性を見出すための会議に参加して、情報の提供・住民との議論・担当課との調整などを行うものです。

「自治会カルテ」とは、自治会に関する各情報を一元化し、地域と行政が一緒になってその課題解決を図るための基礎的資料となるものです。また、課題に対する担当課の対応や処理内容も記載され、自治会役員や担当職員が変わっても、一目で現状と課題、そしてこれまでの対応が分かる内容となっていました。

これら二つの取り組みは、地域自治において大切な行政と住民との深い信頼関係を構築していく手段にもなり、小郡市のこれからのまちづくりにおいても参考になるものでした。

▲地域担当職員制度及び自治会カルテについて（米原市）

### 学びの学校づくり

**犬山市**では、「学びの学校づくり」について視察を行いました。人口約7万5千人、面積74.90平方キロ。

犬山市の学校教育は、「犬山の子どもは犬山で育てる」という共通認識のもと、全ての子どもの学びを保証することを主眼としています。その内容は、少人数学級・少人数授業の推進、副教本・副教材の作成、市費負担による教員等の配置、母国語が異なる子ども達への語学指導員の派遣など、数多くの取り組みがなされていました。当然、教育予算は大きな膨らみを見せていますが、業務の一部を民営化するなど、行財政改革を進め、犬山市一丸となって「犬山の子どもは犬山で育てる」を実践されていることを強く感じるものでした。

▲学びの学校づくりについて（犬山市）

### 茨木っ子ジャンプアッププラン28

**茨木市**では、「茨木っ子ジャンプアッププラン28」について視察を行いました。人口約27万9千人、面積76.49平方キロ。

このプランは、平成20年度から3年ローリングで行われており、プラン28は、平成26年度から28年度にわたるもので「一人も見捨てへん教育」をテーマにしているものです。その特色は、全国学力・学習状況調査の正答率だけでなく、「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の4つの力の育成を目指し、学校と教育委員会との「関係と役割」を明確にした上で、施策が実施されていました。その結果、学力調査の正答率の向上だけでなく、学力低位層の減少、高位層の増加という成果が出ているとのことでした。しかしながら、効果が出ていない学校もあり、予算の傾斜配分などを通して、家庭や地域の厳しい状況の学校を手厚く支援していることも示されました。

▲茨木っ子ジャンプアッププラン28について（茨木市）

## 保健福祉常任委員会

10月20日に三重県名張市、21日に滋賀県近江八幡市を視察しました。

### 名張版ネウボラ

**名張市**では、「名張版ネウボラ」について視察を行いました。人口約8万1千人、面積129.77平方キロ。

大阪圏のベッドタウンとして発展した名張市は、核家族が多く、出生率が高い反面、人口減少と急激な高齢化が進んでいます。

そのような中、安心して出産・子育てが出来る環境を整備するため、フィンランドの子育て支援制度「ネウボラ」を参考に、切れ目なく子育てを支援する仕組み（名張版ネウボラ）を作り、大きな成果を上げています。加えて、名張版では子育て支援のみならず、「生涯現役のまち」を目指し、人や地域とのつながりを実感できる「地域の広場」の設置や、健康づくり事業への支援も行っています。とりわけ特徴的な取り組みは、各校区（15カ所）に「まちの保健室」を設置し、看護師や社

会福祉士などの専門職を常時待機させていることです。本市においてもしっかりと検討する必要性を感じる取り組みでした。

▲名張版ネウボラについて（名張市）

## 地域包括ケアシステム

**近江八幡市**では、「地域包括ケアシステム」について視察を行いました。人口約8万2千人、面積177．45平方キロ。

近江八幡市は、平成24年厚生労働省の「在宅医療連携拠点事業」のモデル事業の取り組みを実施し、行政、医療、介護関係者の役割分担の下、事業を継続的に展開しています。

高齢化や価値観の多様化に伴い、病気になっても可能な限り住み慣れた地域で生活することを支えるため、多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指しています。

また、近江八幡市では対象者を高齢者のみならず、障がい児、子ども等と全ての市民が病気や高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことが出来るまちづくりが進められていました。

▲地域包括ケアシステムについて（近江八幡市）

# 都市経済常任委員会

10月21日に埼玉県日高市、22日に山形県鶴岡市を視察しました。

## 巾着田の観光振興

**日高市**では、「巾着田の観光振興」について視察を行いました。人口約5万7千人、面積47．48平方キロ。

巾着田とは、日高市内を流れる高麗川の蛇行により長い年月をかけてつくられ、その形が巾着に似ていることからそう呼ばれるようになりました。もともとダム湖の用地として購入していましたが、ダムの話が無くなり、河川の増水等により曼珠沙華の球根が根付き、花を咲かせるようになったことから整備が始まりました。その後、整備計画を策定し、市、地元自治会、観光協会、サポーターズクラブなどからなる管理協議会を設立し、巾着田の整備事業が完了しました。その間、県の様々な事業を活用し、観光地としての整備を進め、多方面からの協力を得ながら観光誘致を推進しています。

その結果、一年中様々な花が咲き誇るようになり、いろんな催しが行われています。特に曼珠沙華の開花時期には、2週間ほどでおよそ14万人もの観光客が訪れる観光名所となっています。行政と市民が一体となって推進していることに感心しました。

▲巾着田の観光振興について（日高市）

## コンパクトシティの計画と実践

**鶴岡市**では、「コンパクトシティの計画と実践」について視察を行いました。人口約13万2千人、面積1311．53平方キロ。

鶴岡市では、市街地のスプロール化が進み、中心部の人口減少及び高齢化が加速し、市中心部の商業は衰退傾向をたどりました。この状況に対処するため、住民参画のもと都市計画マスタープランの策定を通じてコンパクトシティのコンセプトを確立しました。取り組みの体制は、市が中心となるものの、市民全体で議論し、専門家や学生のサポートを得て意思を決定しました。

具体策として、都市計画の見直しや鶴岡タウンキャンパス等の教育・研究施設の中心市街地内での整備、また鶴岡城址を中心とする景観を守るため、建築物の高さ制限の導入などが行われました。また、その実現のために、都市機能の中心市街地集中とコンパクト市街地の形成や既存ストックの見直し、再生による魅力拠点の整備、さらには魅力ある商店街の形成など一体的に推進するリーディングプランを掲げ取り組まれています。

全体としては人口減少、高齢化が進んでいますが、自治体として生き残っていく方策の一つであると感じました。また、市民を中心とした30数回にも及ぶワークショップの開催など、積極的な取り組みが印象的でした。

▲コンパクトシティの計画と実践について（鶴岡市）